

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	産業研究所
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 各事業の運営には、学部・研究科の垣根を越えて、テーマに適材の人物を核に当てる。	→研究プロジェクトには、経済学部、商学部以外の代表者によるプロジェクトを創出させる。	A	A	A	A	A
2. 毎年新設する研究プロジェクトの研究員は、特定学部へ偏らないように、テーマに応じて広く学内の各部局から選ぶ。	→研究プロジェクトの学内研究員は、原則として3学部以上からの構成とする。	B	A	A	B	A
3. 産業研究所独自の活動以外に、大学の主催する学術行事や国際交流活動についても、企画、運営を担当する。	→大学主催行事の企画、運営を毎年2件以上担う。	B	A	B	A	A
4. 他大学や学外機関と連携するEUIJ関西事業や日中経済シンポジウム事業を毎年企画・運営する。	→EUIJ関西行事、EU情報センター行事を毎年5件以上行う。日中経済シンポジウムを毎年開催する。	A	A	A	A	A
5. 事務職員が『産研叢書』『産研論集』編集に加わり、迅速性と明瞭なレイアウトにする。(意見交換後修正)	→『産研叢書』は、学外者の書評(『産研論集』掲載)で肯定的な評価を受ける。『産研論集』は企画論文を毎年必須にしている。	A	A	A	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

## 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 共同研究プロジェクトの研究代表者に商学部、経済学部以外の教員へ依頼すること、2013年度より研究プロジェクトを公募制を実施し、研究員の所属学部が特定学部には偏らない構成をめざした。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2010年度以降の新規プロジェクトより国際学部、総合政策学部教員が研究代表者を担い、幅広く学内研究員を集めることが可能となった。具体的には「日本の国際開発援助授業」(研究代表者 鷲尾友春国際学部教授)、「公共インフラの整備と地域振興政策の推進」(研究代表者 長峯純一総合政策部教授)「アセアンの経済共同体の成立-EUとの比較」(研究代表者 Hブングシェ国際学部教授)である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 他大学、研究領域の隣接した関連の学会との共催、研究会等EUIJ関西との連携を実現して学内外に情報発信をおこなう。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆
目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 研究代表者へ複数学部の教員を研究員として採用すること、学外研究員も必須として研究会を立ち上げるよう求め、3年間の研究期間に研究員の構成を見直しながらバランスのとれた研究成果をあげることを求めた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 共同研究員の所属は原則3学部として運用。その結果、3プロジェクトのうち一部は2学部となる場合もあったが、それについては、学外からの研究者や実務家を研究員として受け入れて研究者間のネットワーク形成をはかること、さらに研究分野のバランスを考慮して学内研究員の人数を調整する必要があった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 研究プロジェクト公募に際し、3組織以上にこだわらず、学外研究員の受け入れを活性化させるため、募集要項において、研究員は少なくとも学内の3組織以上、または学外研究機関あるいは産業界を含む場合には学内の2組織以上の専任教員(任期制を含む)を含むものとし、運用の柔軟化を図っている。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学主催行事に関して、2012年度は『新関西国際空港キックオフシンポジウム「アジア交流・新時代の到来」』、2011年度は『日中経済シンポジウム』『日中経済社会発展フォーラム』等において、資金協力を含め研究所が企画した事業を提案した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2009年度～2012年度について大学主催の講演会・シンポジウムを毎年1～2回企画、運営を行った。これらの企画に際しては学外者の一般市民、企業関係者等にも情報発信するとともに提言を行うことができた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も、シンポジウム、EUIJ関西活動を学内他部課・CIEC等との連携を通じて学部生にも広報する。(留学フェアへの参加等)</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆
目標4	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか EUIJ関西を構成するコンソーシアムの各大学と協力して事業を展開、EU情報センター行事についてもEUIJ関西と共催で開催することでEU広報に寄与した。日中シンポにおいては吉林大学および学内内部局との連携をとりながら事業を実施した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か EUIJ関西、EU情報センター行事については、セミナー、シンポジウム等を毎年多数開催(「EUと日本における企業の社会的責任」、「金融危機後の自動車部品産業-ヨーロッパと日本の視点から-」、「欧州連合の地域開発政策」、「東日本大震災と福島第一原発事故 EUと日本のエネルギー政策への影響」等)、「日中経済社会シンポジウム」は先方の都合で2013年度は開催を見送ったがそれ以外は毎年実施している。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 共同研究プロジェクトですでに学外経済団体と連携した公開型講演会、研究会を実施しているが、さらに多くの団体との連携を視野に活動を行う。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆

目標5	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 研究成果を『産研叢書』、『産研論集』として刊行するにあたり、出版社との調整、編集、執筆者との調整を事務室職員が担 える環境を整えた	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学外、学内研究者との調整を円滑に進めることが可能となり、出版物の評価については学外の書評等で一定の評価を得て いる。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 研究支援業務の一環として研究成果発表に関わる業務を位置づけ、社会的にも評価される研究活動を支援する体制づくり を行う。	☆
		その他	☆
備考			☆